

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
令和5年度 分担研究報告書

「薬剤師のキャリア形成促進に関する研究」
研究分担者 橋田 亨 神戸市立医療センター中央市民病院院長補佐

研究要旨

薬剤師のキャリア形成についての現状と課題を把握するため、病院における卒後研修の実施体制・受入体制等の実態、薬剤師を対象としてキャリア形成に関する意識について調査した。卒後研修への取組みの重要性は多くの施設で認識されていた。若手薬剤師のキャリアパスは多様であり、それを支えるプログラムの必要性が認められた。卒後研修の体制整備については、人材確保や研修費用の公的助成等の課題を解決することで、受け入れ可能とする施設が各地に存在することが明らかとなった。全国規模の卒後研修体制構築に向けては令和6年3月に公表された「薬剤師臨床研修ガイドライン」に基づく、具体的な進展が期待される。

A. 研究目的

令和元年度の日本病院薬剤師会会員施設1,505施設を対象とした「薬剤師の卒後研修カリキュラムに関するアンケート調査」では、約3割の施設においては、カリキュラムに基づいた1ヶ月以上の薬剤師レジデントあるいは新人教育として卒後研修を実施していたが、一方で研修を実施していない施設が約7割を占めた¹⁾。

本調査の目的は、「病院における卒後研修の実施体制・受入体制等の実態調査」ならびに「薬剤師を対象としてキャリア形成に関する意識調査」を実施し、受入体制等の現場の実態等を明らかにし、全国での卒後研修実施における課題の把握と卒後研修制度の進め方について検討することである。

B. 研究方法

病院を対象とした「病院調査」ならびに病

院に勤務する薬剤師(薬剤師免許取得から概ね10年以内)を対象とした「病院薬剤師調査」の2調査について、それぞれWeb上に回答フォームを作成し、令和6年1月~3月にかけてWeb調査を実施した。

研究協力者の武田泰生(一般社団法人日本病院薬剤師会・会長)の指示のもと日本病院薬剤師会の全面的な協力を得て、日本病院薬剤師会から都道府県病院薬剤師会会長宛に周知した。それぞれの調査内容を別添資料1(1-1:病院調査、1-2:病院薬剤師調査)に示す。

(倫理面への配慮)

本研究は主として研究代表者、研究分担者及び研究協力者による議論によって進め、施設及び個人に対するアンケート調査としたので、倫理面で問題となることはない。

C. 結果

1. 病院調査

病院調査では、90 施設からの回答があり、回答施設の概要は、別添資料 2-1 から 3 に示す。500 床以上の病院が約半数を占め、多くが一般病院であった。

病院の常勤薬剤師数は、資料 2-4 に示す。平均 54.9 人、中央値 27.5 人であった。

病院での研修の状況 新入職員の研修実施状況は、資料 2-5 のとおり、62%の病院でプログラムに基づいた 1 カ月以上の卒後研修が実施されていた。また、レジデント制度を導入している病院は 18%あった(資料 2-6)。

新入職員へのプログラムを用いた研修の状況について、研修期間は資料 2-7 のとおり、90%以上の施設は 6 ヶ月以上の研修期間で、1 年以上をかけて研修を実施している施設は約 30%であった。研修項目は調剤、注射、製剤等のセントラル業務ならびに病棟業務についてはほとんどの施設が実施していた。ついで、薬剤外来、チーム医療をプログラムに加える施設も多かった(資料 2-8)。

資料 2-9 に到達目標の設定状況等に示す。55%の施設で到達目標の設定がされている。ルーブリック等の評価システムの活用や面談を実施していた(資料 2-10)。

「卒後臨床研修ガイドライン(案)」に基づく研修の実施については、60%の施設が実施可能と回答した(資料 2-11)。

また、地域別では、29 の都道府県において受け入れ可能な施設が存在した(資料 2-12)。

一方で、「卒後臨床研修ガイドライン(案)」に基づいた研修実施の課題としては、指導者側に教育にかかる時間がない、慢性

的な人員不足で新人であってもすぐに業務を行ってもらわざるを得ない状況である、が半数以上を占めた(資料 2-13)。

上記ガイドラインに基づいた研修実施可能と回答した施設のうち、卒後研修制度が制度化された場合に他施設・薬局からの受入については、研修費の公的負担のある場合は 73%が受け入れ可能であった(資料 2-14)。一方で研修費の公的負担がない、すなわち給与・その他研修費用は研修受入機関が負担する場合には、受け入れ可能施設は 23%に減少した(資料 2-15)。

現時点で受け入れ可能人数については全体の 75%以上が 1～2 人の範囲にとどまったが、中には 10 人以上受け入れ可能としら施設もあった(資料 2-16)。

「卒後臨床研修ガイドライン(案)」に基づいた研修を行う場合の課題については、指導者側に教育にかかる時間がない、慢性的な人員不足で新人であってもすぐに業務を行ってもらわざるを得ないと答えた施設が半数以上を占めた(資料 2-17)。

2. 病院薬剤師調査

薬剤師調査では、576 名からの回答があり、薬剤師としての勤務経験等は図 18 のとおり、80%程度の者が他施設での勤務経験はなかった(資料 2-18)。

保有している認定資格については、資料 2-19 に示す。

外部研修の年間受講頻度は、平均 7.31 回、中央値 5 回であった(資料 12-20)。

延べ 1 カ月以上の受講経験においては、自施設での研修が半数以上を占めた。認定・専門薬剤師取得のための研修も 143 人(24.8%)が受講、他施設での研修も 79 名(13.7%)

が受講していた（資料 2-21）。

薬剤師として勤務する上での有意義だと思う研修については、「医師に処方提案する知識・技術を身につける研修」が最も多く、「患者に服薬指導する知識・技術を身につける研修」、「薬物体内動態解析に関する知識・技術を身につける研修」等を有意義に考えていた（資料 2-22）。

研修を受ける適切と思う時期については、免許取得後 2～5 年以内が 58% を占めていた（資料 2-23）。

今後のキャリア形成 今後、薬剤師として取り組んでいきたい学術活動に関しては、学会等でのポスター・口頭発表が 393 名（68%）で次に論文投稿が 267 名（46%）であった（資料 2-24）。

将来的なキャリア形成については、認定薬剤師、専門薬剤師の取得等について考えている薬剤師が多かった（資料 2-25）。

D. 考察

1. 病院調査

今回、薬剤師のキャリア形成促進に関するアンケート調査を日本病院薬剤師会会員施設に依頼したところ、病院 90 施設、薬剤師 576 名から回答を得た。回答施設の病院規模は 500 床以上の施設が多く、開設主体においては一般病院が多かった。病院での卒後研修の状況においては、62% の病院でプログラムに基づいた 1 カ月以上の卒後研修が実施されていた。令和元年度の日本病院薬剤師会会員施設 1,505 施設を対象とした「薬剤師の卒後研修カリキュラムに関するアンケート調査」では、約 3 割の施設がカリキュラムに基づいた 1 ヶ月以上の卒後

研修を実施しており、それに比べ今回の結果は多くの施設が卒後研修を実施していた。前回のアンケートに比べ、回答数が少ないこと、また、回答した施設の規模も 500 床以上の施設が多い事も影響しているが、卒後研修に関する必要性は高まっていると考える。

一方で、「卒後臨床研修ガイドライン(案)」に基づいた研修実施ならびに他施設・薬局からの受け入れにおいては、指導者側に教育にける時間がない、慢性的な人員不足で新人であってもすぐに業務を行ってもらわざるを得ない状況であるの課題があったが、卒後研修制度が制度化された場合、他施設ならびに薬局からの受け入れについては、研修費の公的負担のある場合においては、73% の施設が可能と回答があったことは、今後の卒後研修の制度化に向けた体制整備を進める上で重要である。一方で、今回の調査では回答施設に地域差があり、地域別の受け入れについての詳細な結果を得ることができておらず、今後は地域別の体制整備に向けた調査が必要であると考ええる。

2. 病院薬剤師調査

薬剤師に対する調査においては、現時点では認定・専門を取得している薬剤師は少ないものの、外部研修の年間受講頻度は、平均 7.31 回と積極的に研修を受けている。さらに、「医師に処方提案する知識・技術を身につける研修」、「患者に服薬指導する知識・技術を身につける研修」、「薬物体内動態解析に関する知識・技術を身につける研修」等を有意義に考えており、若手のキャリアパスを支援するための研修においては多職種連携で活躍できる能力を重視することが

重要と考える。今後のキャリアパスとしても若手薬剤師は専門・認定 薬剤師の資格取や学会発表や論文掲載を考えており、1 年間の卒後研修から認定・専門取得につなげる教育研修体制についても検討が必要である。

E. 結論

卒後研修への取組みの重要性は多くの施設で認識されていた。若手薬剤師のキャリアパスは多様であり、それを支えるプログラムの必要性が認められた。

卒後研修の体制整備については、人材確保や研修費用の公的助成等の課題を解決することで、受け入れ可能とする施設が各地に存在することが明らかとなった。全国規模の卒後研修体制構築に向けては公表された卒後研修ガイドラインに基づいて、具体的な進展が期待される。

最後に本研究にご協力いただいた日本病院薬剤師会会員施設および諸氏に心より感謝の意を表する。

参考文献

- (1) 令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」.

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし。

Webアンケート	
----------	--

(A)薬剤師のキャリア形成促進に関する研究 病院調査票	
都道府県 必須	-----
病院名 必須	
薬剤師責任者名 必須	
回答者名 必須	
連絡先電話番号 必須	----- - ----- 半角数値
e-mail 必須	半角英数字記号で入力
本アンケート結果について1名、個人が特定されないよう十分配慮したうえで学会等で発表する場合がありますが、同意していただけますか。	
同意確認 必須	☐ 同意する 同意しない場合は、本アンケート調査にご回答いただく必要はありません。
1. 施設設の概要についてお聞きします。【全施設対象】	
● 診療科数 必須	医療法の届け出を行っている診療科数をご記入ください 半角数値で入力 科
● 病床数 必須	実際に稼働できる病床数をご記入ください 半角数値で入力 床
② 開設主体 必須	☐ 厚生労働省 ☐ (他)国立病院機構 ☐ 国立大学法人 ☐ 公立大学法人 ☐ 学校法人 ☐ (他)労働者健康安全機構 ☐ 公立(都道府県、市町村等) ☐ 日本赤十字社 ☐ 済生会 ☐ 厚生連 ☐ 国家公務員共済組合連合会 ☐ (他)地域医療機能推進機構 ☐ 保険医療団体(国民健康保険組合等) ☐ 医療法人(社団、財団特定等) ☒ 個人 ☐ その他
「その他」の内容 必須	
● 病院の種類 必須	☐ 一般病院 ☐ 精神科病院 ☐ 療養型病院 ☐ ゲアミックス
● 職員数(常勤薬剤師) 必須	令和5年4月1日現在の人数 半角数値で入力 名
● 職員数(非常勤薬剤師) 必須	令和5年4月1日現在の人数 非常勤数＝1期間の実質勤務時間÷40で計算してください (例)1日5時間、週3日勤務:15時間÷40＝0.375 → 0.375名 半角数値で入力 名
2. 施設設での卒後研修制度についてお聞きします。【全施設対象】	
● 新人職員の卒後研修を実施されていますか。 必須	(※調査の卒後研修とは、新人職員に対するプログラムに基づいた1ヶ月以上の研修をいいます) ☐ はい ☐ いいえ ☐ 検討中
● レジデント制度を実施されていますか。 必須	(※調査のレジデント制度とは、プログラムに基づいた研修をいいます。施設から給与が支給される制度をいいます) ☐ はい ☐ いいえ ☐ 検討中
3. ご施設での新人職員の卒後研修制度についてお聞きします。「上記2-①」で「はい」と回答された新人職員の卒後研修制度についてご回答ください。 (本調査での卒後研修制度とは、新人職員に対するプログラムに基づいた教育・研修を意味します。上記2-②のレジデントに対する研修は含みません。)	
● 卒後研修制度の開始年月について(開始年) 必須	卒後研修制度の開始年月が不明な場合は「0000」を入力してください。 半角数値4ケタ(西暦)で入力 年
同(開始月) 必須	卒後研修制度の開始年月が不明な場合は「0」を入力してください。 半角数値(1～12)で入力 月
● 研修期間について 必須	☐ 1ヵ月以内 ☐ 3ヵ月以内 ☐ 6ヵ月以内 ☐ 1年以上 ☐ 1年以上超える
「上記2-①」で「はい」または「検討中」と回答された場合は「対象外」を選択してください。	
③ 研修項目について(複数回答可) 必須	☐ ローテーション等で研修開始時期が複数となる場合は、典型例について回答してください。 ☐ 調剤 ☐ 注射調剤 ☐ 製剤 ☐ 麻薬調剤 ☐ 無菌調製 ☐ DI ☐ TBM ☐ 病棟業務 ☐ 薬剤師外来 ☐ チーム医療 ☐ 臨床研究 ☐ 学会発表 ☐ 論文投稿 ☐ その他1 ☐ その他2 ☐ 対象外(「上記2-②」で「はい」または「検討中」と回答)
調剤:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
調剤:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
注射調剤:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
注射調剤:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
製剤:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
製剤:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
麻薬調剤:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
麻薬調剤:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
無菌調製:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
無菌調製:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
DI:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
DI:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
TBM:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
TBM:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
病棟業務:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
病棟業務:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
薬剤師外来:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
薬剤師外来:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
チーム医療:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
チーム医療:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
臨床研究:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
臨床研究:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
学会発表:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
学会発表:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
論文投稿:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
論文投稿:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
その他1:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
その他1:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
その他2:開始時期 必須	半角数値で入力 ヵ月日より
その他2:期間 必須	半角数値で入力 ヵ月
「上記2-②」で「はい」または「検討中」と回答された場合は「対象外」を選択してください。	
● 到達目標の設定について 必須	☐ 到達目標を設定している ☐ 特に定めていない ☐ 対象外(「上記2-②」で「はい」または「検討中」と回答)
「到達目標を設定している」場合、その特徴 必須	特徴を記載してください
「上記2-①」で「はい」または「検討中」と回答された場合は「対象外」を選択してください。	
④ 研修評価について(複数回答可) 必須	☐ ルーブリック評価票を用いている ☐ ルーブリック以外の評価票を用いている ☐ 面談による評価している ☐ その他 ☐ 特に評価方法を定めていない ☐ 対象外(「上記2-②」で「はい」または「検討中」と回答)
「ルーブリック評価票を用いている」場合、その特徴 必須	特徴について記載してください
「ルーブリック以外の評価票を用いている」場合、その特徴 必須	特徴について記載してください
「面談による評価している」場合、その特徴 必須	特徴について記載してください
「その他」の場合、その特徴 必須	特徴について記載してください
「上記2-②」で「はい」または「検討中」と回答された場合は「対象外」を選択してください。	
● 指導担当責任者について 必須	☐ 指導担当責任者を決めている ☐ 特に定めていない ☐ 対象外(「上記2-②」で「はい」または「検討中」と回答)
「指導担当責任者を決めている」場合、その人数 必須	合計 半角数値で入力 名
4. ご施設においてプログラムに基づいた1年間の卒後研修を行うことは可能ですか。	
研修項目については、令和4年度 卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業「薬剤師卒後臨床研修ガイドライン」(案)(抜粋)ならびに「薬剤師卒後臨床研修における指導薬剤師の要件(案)」(添付参考資料:卒後臨床研修ガイドライン案)の内容につきましては、今後変更されることもあります。)を参考にしてください。	
回答 必須	☐ はい ☐ いいえ
5. 4の回答の(はい/いいえ)にかかわらず、プログラムに基づいた1年間の卒後研修を行うにあたり、考えられる問題点を挙げてください(複数回答可)。	
問題点 必須	☐ 指導者側に教育にかけられる時間が少ない ☐ 教育できる指導者が少ない ☐ 教育用のツールがない ☐ 慢性的な人員不足で新人であってもすぐに業務を行ってもらわざるを得ない状況である ☐ 特に問題なし ☐ その他
「その他」の内容 必須	
6. 卒後研修制度が制度化された方法と仮定して質問します。 (卒後研修の制度化とは、医師の研修制度と同様に1年間の卒後研修を実施し、研修後は自施設での継続採用がなくても施設(病院、保険薬局、行政など)へも輩出し、キャリアパスを支援する制度を想定しています。)	
● 卒後研修の制度化された場合、1年間の卒後研修をご施設で受けけることは可能ですか。	
1) 研修費の公的負担のある場合 必須	☐ はい ☐ いいえ
2) 研修費の公的負担のない場合(給与・その他研修費用は研修受入機関が負担) 必須	☐ はい ☐ いいえ
● 現時点で何名の研修生の受け入れが可能ですか。 必須	半角数値で入力 人
⑤ 4～6の回答の(はい/いいえ)にかかわらず、問題点を挙げてください(複数回答可)。	☐ 指導者側に教育にかけられる時間が少ない ☐ 教育できる指導者が少ない ☐ 教育用のツールがない ☐ 慢性的な人員不足で新人であってもすぐに業務を行ってもらわざるを得ない状況である ☐ 施設が教育した人材を他施設へ輩出することを考えにくい ☐ 特に問題なし ☐ その他
「その他」の内容 必須	
7. 卒後研修制度として制度化されず、薬局薬剤師を希望する新卒薬剤師が1年間の実務研修を希望した場合(研修生の資金等は雇用者である医療機関が負担する)について質問します。	
● 受入は可能ですか? 必須	☐ はい ☐ いいえ
⑥ 受入可能な場合現時点で何人の研修生の受入が可能ですか? 必須	半角数値で入力 人
8. 施設設の薬剤業務の実施状況について 【全施設対象】	
● 薬剤管理指導業務について	
1) 薬剤管理指導料(300点) 2022年6月末実績 必須	半角数値で入力 件
2) 薬剤管理指導料2(325点) 2022年6月末実績 必須	半角数値で入力 件
3) 2022年薬剤師新卒管理指導料(40点) 2022年6月末実績 必須	半角数値で入力 件
4) 2022年薬剤師継続管理加算(60点) 2022年6月末実績 必須	半角数値で入力 件
● がん患者指導管理について	
1) 製薬部によるがん患者指導管理料の算定 必須	☐ 有 ☐ 無
● 病種薬剤業務実施加算について	
1) 病種薬剤業務実施加算の算定 必須	☐ 加算1(120点) ☐ 加算2(180点) ☐ 加算12両方 ☐ 無
● 外来化学療法業務について	
1) 外来化学療法加算の算定 必須	☐ 加算1 ☐ 加算2 ☐ 無
2) 2022年6月末実績 必須	半角数値で入力 件
● 感染対策防止加算について	
● 感染対策防止加算について 必須	☐ 感染防止対策加算1算定 ☐ 感染防止対策加算2算定 ☐ 算定していない
● 入院退院支援業務について	
● 入院退院支援業務について 必須	☐ 入院支援 ☐ 退院支援 ☐ 入院退院支援 ☐ していない
● 薬学部実務実習について	
1) 薬学教育協議会認定実務実習指導薬剤師 必須	半角数値で入力 名
2) 日病薬認定指導薬剤師 必須	半角数値で入力 名
3) 年間実習生受入人数 必須	半角数値で入力 名(2022年度)
● 薬剤師職員の専門認定資格について ※1名が複数の資格等取得している場合は、すべてを記入してください。 (例:1名が感染制御認定薬剤師と専門薬剤師の両方を取得している場合、2名と記入してください。)	
1) 日本病院薬剤師会 カン薬物療法認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
2) 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師・専門薬剤師 必須	半角数値で入力 名
3) 日本病院薬剤師会 精神科認定薬剤師・専門薬剤師 必須	半角数値で入力 名
4) 日本病院薬剤師会 妊産婦乳婦認定薬剤師・専門薬剤師 必須	半角数値で入力 名
5) 日本病院薬剤師会 HIV感染症認定薬剤師・専門薬剤師 必須	半角数値で入力 名
6) 日本医療薬学会 がん専門薬剤師・指導薬剤師 必須	半角数値で入力 名
7) 日本医療薬学会 認定薬剤師・指導薬剤師 必須	半角数値で入力 名
8) 日本医療薬学会 薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師 必須	半角数値で入力 名
9) 日本臨床薬理学会 外来がん治療認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
10) 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
11) 日本緩和医療学会 緩和薬物療法認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
12) 日本癌治療学会 がん治療認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
13) 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 必須	半角数値で入力 名
14) 日本高血圧学会 高血圧・循環器病予防療養指導士 必須	半角数値で入力 名
15) 日本プライマリケア連合学会 プライマリケア認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
16) 日本救急救急医学会 救急認定薬剤師 必須	半角数値で入力 名
17) 日本医療情報学会 医療情報技術 必須	半角数値で入力 名
18) その他 必須	半角数値で入力 名
「18」その他Jの内容 必須	具体的に書きください
病院調査票の回答に際しての補足などあればご記載ください。	
自由記述	
リセット 送信する (確認)	

資料1-2:病院薬剤師調査

Webアンケート



■ (B)薬剤師のキャリア形成促進に関する研究 病院薬剤師調査票

施設名 必須	
電話番号 必須	- -

(1) あなたが所属する医療機関の所在地をお答えください。

所在地 必須 ----- ▼

(2) あなたの薬剤師としての勤務経験についてお答えください。また、他病院や薬局、大学、企業等での薬剤師経験(薬剤師免許が必要となる業務への従事経験)があれば、その内容を併せてお答えください。

勤務経験	必須	○ 1 2021年4月から2023年現在の間に薬剤師免許を取得後、病院薬剤師として勤務(他の病院や薬局、大学、企業等の経験なし) ○ 2 2021年4月から2023年現在の間に薬剤師免許を取得後、他の病院や薬局、大学、企業等などの勤務経験あり ○ 3 2021年3月以前に薬剤師免許を取得後、病院薬剤師として勤務(他の病院や薬局、大学、企業等の経験なし) ○ 4 2021年3月以前に薬剤師免許を取得後、他の病院や薬局、大学、企業等などの勤務経験あり
勤務先	必須	2を選択された場合の 勤務先(病院、診療所、製薬企業など): として
勤務期間(年)	必須	2を選択された場合の 勤務期間(年) 半角数値で入力 例) 5年3か月間勤務した場合は、「5」を入力
勤務期間(月)	必須	2を選択された場合の 勤務期間(か月) 半角数値で入力 例) 5年3か月間勤務した場合は、「3」を入力
勤務先	必須	4を選択された場合の 勤務先(病院、診療所、製薬企業など): として
勤務期間(年)	必須	4を選択された場合の 勤務期間(年) 半角数値で入力 例) 5年3か月間勤務した場合は、「5」を入力
勤務期間(月)	必須	4を選択された場合の 勤務期間(か月) 半角数値で入力 例) 5年3か月間勤務した場合は、「3」を入力

(3) 現在、あなたが保有している認定資格についてお答えください。(複数選択可)

認定資格 必須	☐ 1) 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 ☐ 2) 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師・専門薬剤師 ☐ 3) 日本病院薬剤師会 精神科認定薬剤師・専門薬剤師 ☐ 4) 日本病院薬剤師会 妊婦授乳婦認定薬剤師・専門薬剤師 ☐ 5) 日本病院薬剤師会 HIV感染症認定薬剤師・専門薬剤師 ☐ 6) 日本医療薬学会 がん専門薬剤師・指導薬剤師 ☐ 7) 日本医療薬学会 認定薬剤師・指導薬剤師 ☐ 8) 日本医療薬学会 薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師 ☐ 9) 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 ☐ 10) 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 ☐ 11) 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 ☐ 12) 日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士 ☐ 13) 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 ☐ 14) 日本高血圧学会 高血圧・循環器病予防療養指導士 ☐ 15) 日本プライマリケア連合学会 プライマリケア認定薬剤師 ☐ 16) 日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 ☐ 17) 日本医療情報学会 医療情報技師 ☐ 18) その他(具体的に教えてください) ☐ 19) 認定資格なし
「18)その他」の内容 必須	具体的に:

(4) あなたの外部研修(薬剤師会等による研修会、学会参加等)の受講頻度(年平均)をお答えください。

受講頻度(年平均) **必須**

約

回/年

(5) あなたが薬剤師として経験した研修(研修期間延べ1か月以上、薬学生の実務実習・自己研鑽を除く)について、お答えください。(複数選択可)

経験した研修 必須	☐ 1 現在の職場における研修(採用時の新人研修を含む) ☐ 2 他施設における研修(採用時の新人研修を含む) ☐ 3 認定・専門薬剤師を取得するための研修 ☐ 4 その他 ☐ 5 1か月以上に亘る研修を受けたことがない
「4 その他」の内容 必須	具体的に:

(6)-1 あなたが病院薬剤師として勤務する上で有意義だと思う研修(研修中も有給であることを前提とする)をお答えください。(複数選択可)

有意義だと思う研修 必須	☐ 1 調剤する知識・技術を身につける研修 ☐ 2 患者に服薬指導する知識・技術を身につける研修 ☐ 3 医師に処方提案する知識・技術を身につける研修 ☐ 4 薬物体内動体解析に関する知識・技術を身につける研修 ☐ 5 論文、学会発表する知識・技術を身につける研修 ☐ 6 認定・専門薬剤師の認定取得に必要な研修 ☐ 7 その他 ☐ 8 有意義だと思う研修はない
「7 その他」の内容 必須	具体的に:

(6)-2 研修を受ける時期について、適切と思う時期をお答えください。

適切と思う時期 必須	☐ 1 免許取得後1年以内 ☐ 2 免許取得後2～5年以内 ☐ 3 免許取得後5年超経過後 ☐ 4 その他
「4 その他」の内容 必須	具体的に:

(7) あなたが、今後取り組んでいきたい学術活動をお答えください。(複数選択可)

学術活動 必須	☐ 1 学会等でのポスター・口頭発表 ☐ 2 学会等でのシンポジウム企画 ☐ 3 論文投稿 ☐ 4 日本病院薬剤師会や学会等の委員会への参加 ☐ 5 その他 ☐ 6 取り組みたい学術活動はない
「5 その他」の内容 必須	具体的に:

(8) あなたの薬剤師としての将来的なキャリア形成について、現状で考えているものをお答えください。(複数選択可)

将来的なキャリア形成 必須	☐ 1 認定薬剤師の取得 ☐ 2 専門薬剤師の取得 ☐ 3 学位(薬学博士)の取得 ☐ 4 学位(薬学博士以外)の取得 ☐ 5 その他 ☐ 6 わからない ※領域別薬剤師等、専門薬剤師、高度専門(指導)薬剤師の別についてはこちらからご確認ください。
「1 認定薬剤師の取得」の内容 必須	具体的に:
「2 専門薬剤師の取得」の内容 必須	具体的に:
「5 その他」の内容 必須	具体的に:

(9) あなたが薬剤師の研修について、望むことがあればお答えください。

望むこと	自由記載
------	-----------------------------

病院薬剤師調査の回答に際しての補足などあればご記載ください。

自由記述	
------	--

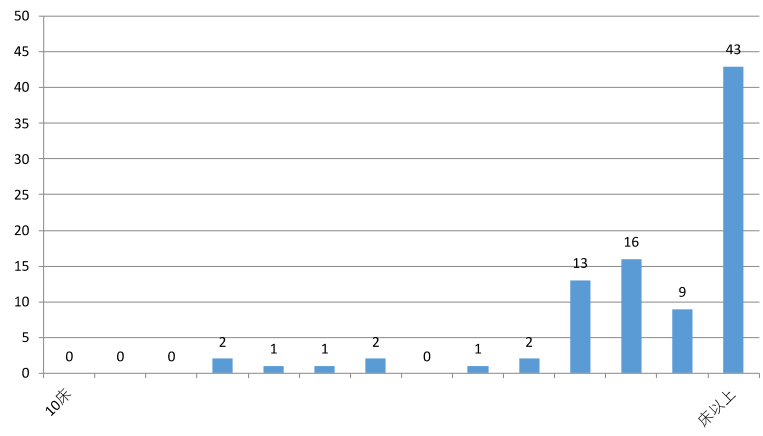
リファクト

送信する (確認)

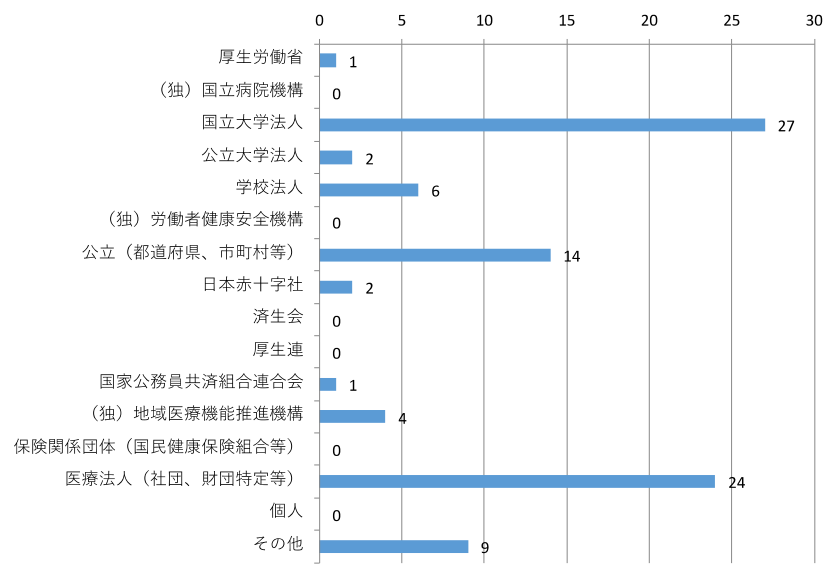
資料1-2:病院薬剤師調査

資料 2

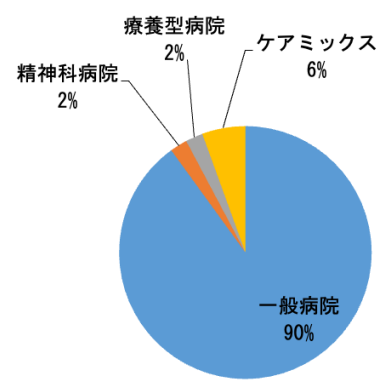
1. 回答施設の概要：病院調査・病床数



2. 開設主体

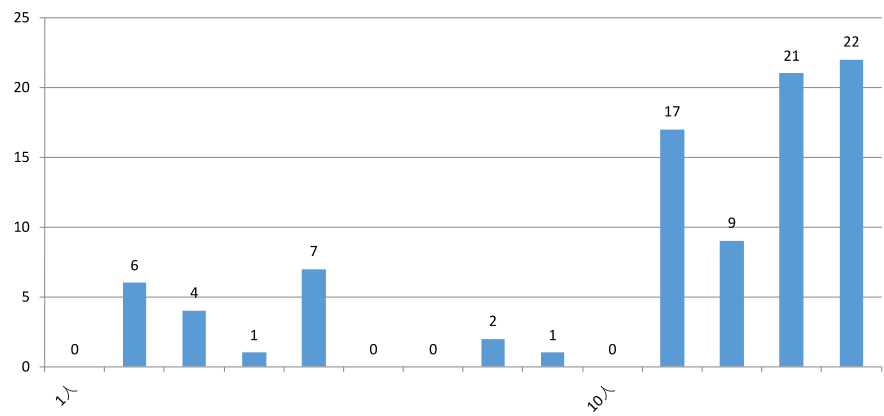


3. 病院の種類

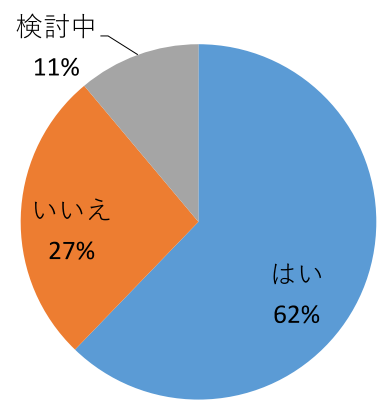


資料 2

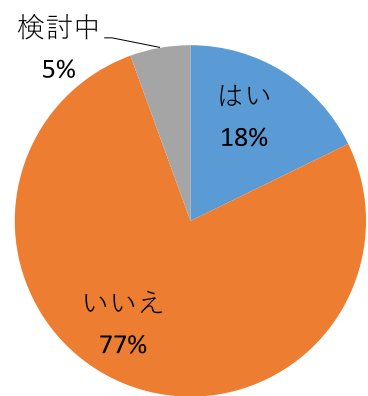
4. 常勤薬剤師数



5. 新人職員への研修実施状況

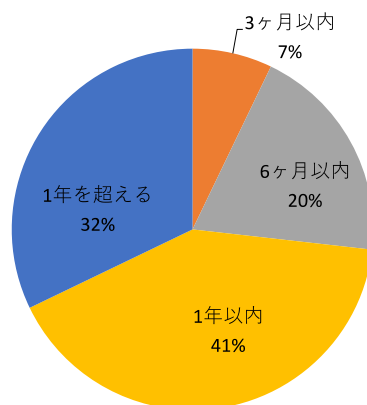


6. レジデントの実施状況

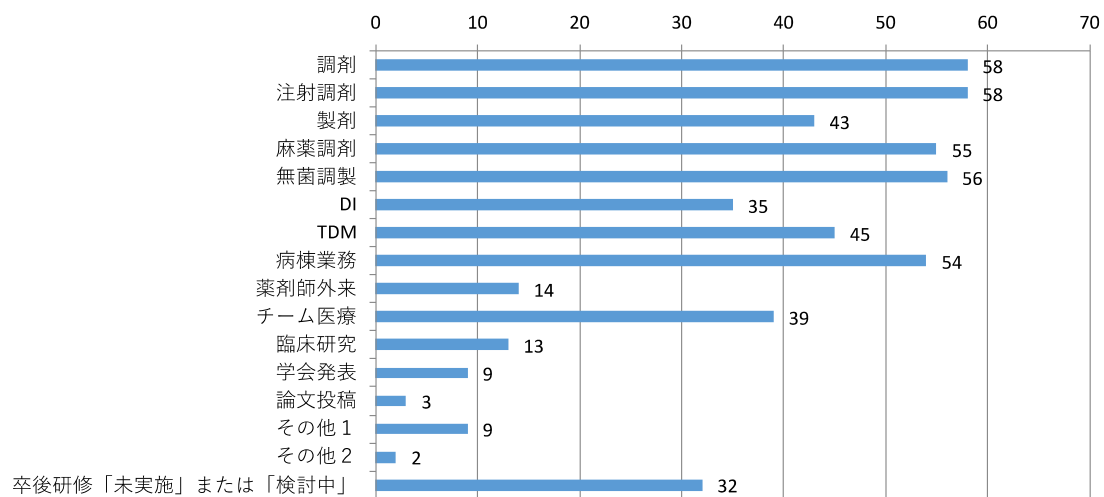


資料 2

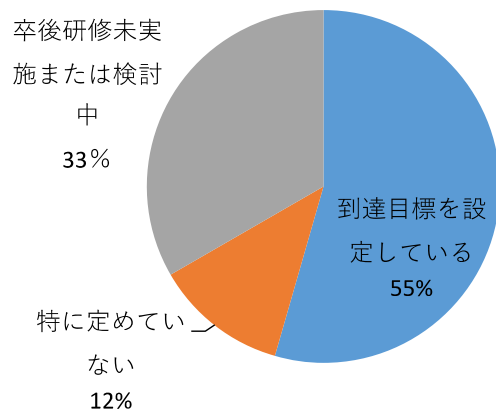
7. 研修期間について



8. 研修項目

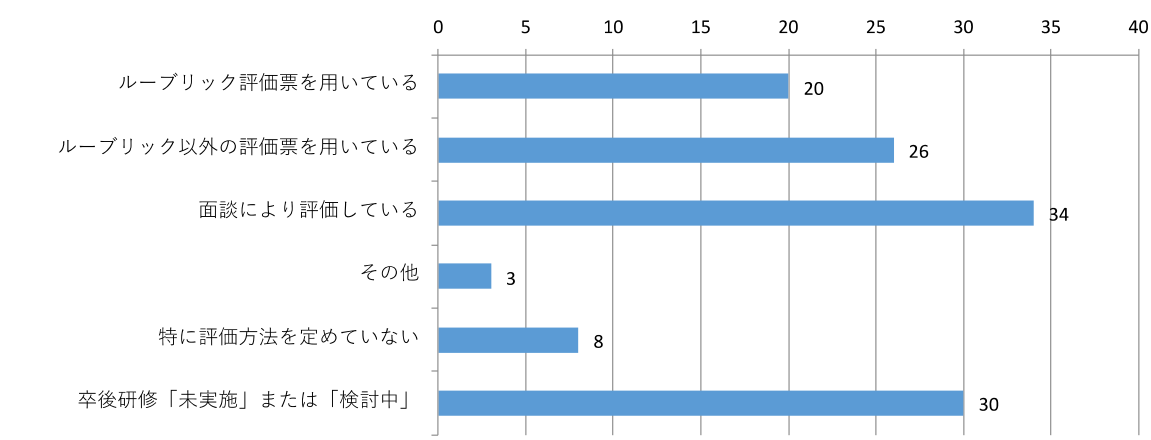


9. 到達目標の設定について

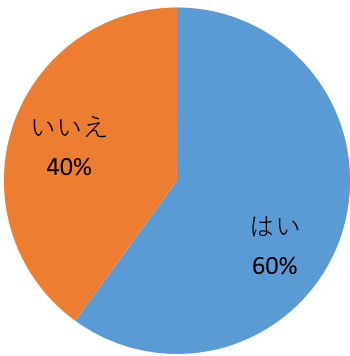


資料 2

1 0. 研修評価方法（複数回答可）



1 1. 卒後臨床研修ガイドライン(案)に基づく研修の実施

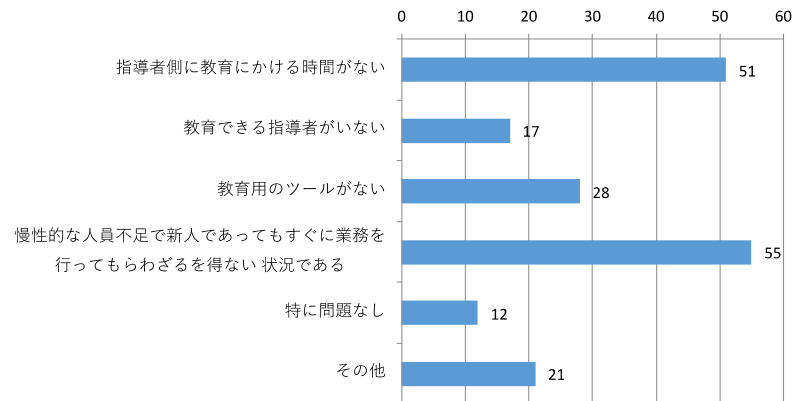


1 2. 都道府県別の卒後臨床研修ガイドライン(案)に基づく研修の受入

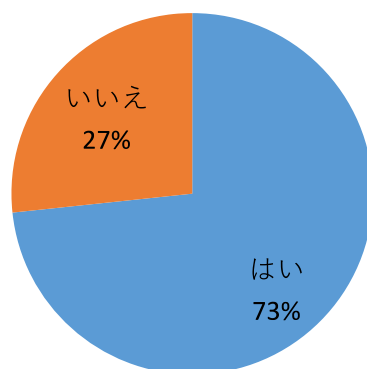


資料 2

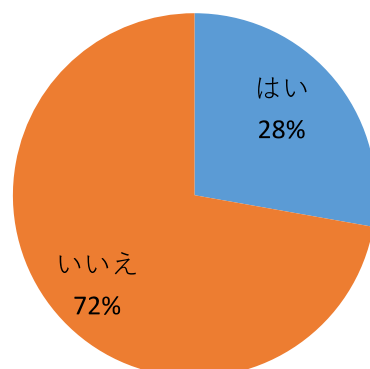
1 3. 「卒後臨床研修ガイドライン(案)」に基づいた研修を行う場合の課題 (複数回答可)



1 4. 卒後研修制度が制度化された場合、他施設・薬局からの受入 (研修費の公的負担のある場合)

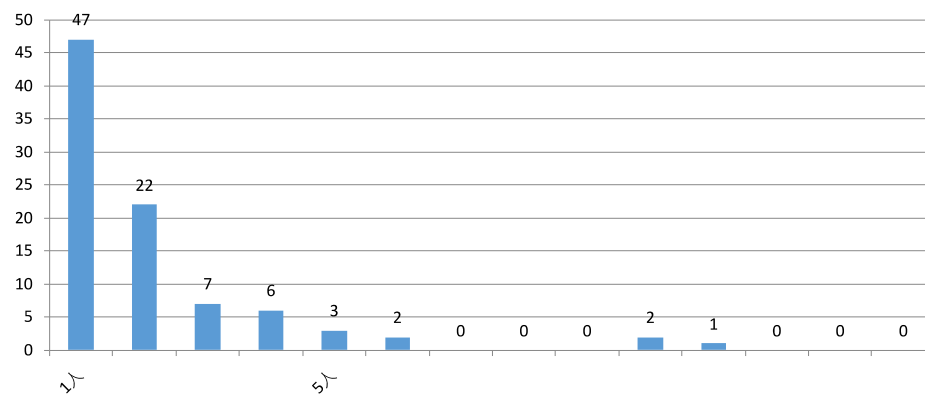


1 5. 卒後研修制度が制度化された場合、他施設・薬局からの受入 (研修費の公的負担のない場合(給与・その他研修費用は研修受入機関が負担))

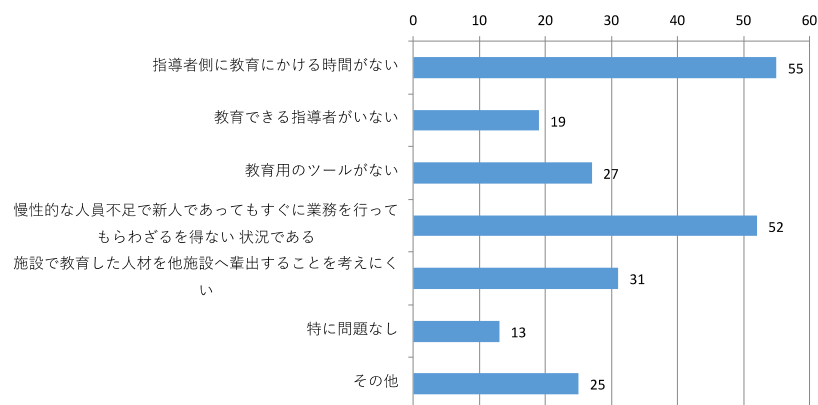


資料 2

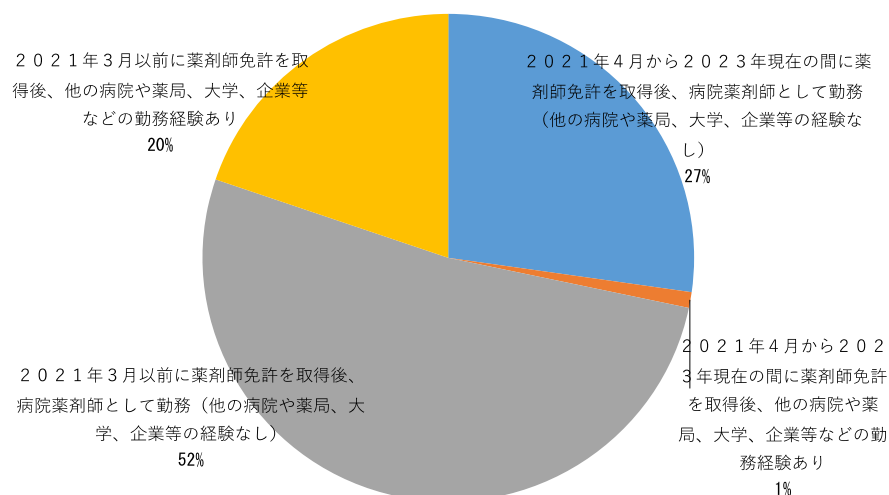
16. 現時点での受け入れ可能人数



17. 「卒後臨床研修ガイドライン(案)」に基づいた研修を行う場合の課題 (複数回答可) (他施設・薬局からの受入)

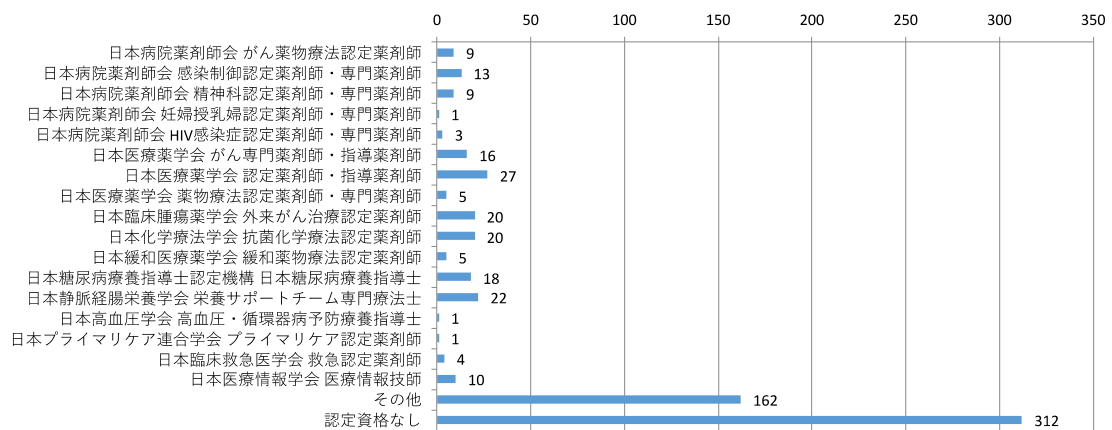


18. 薬剤師調査・勤務経験等

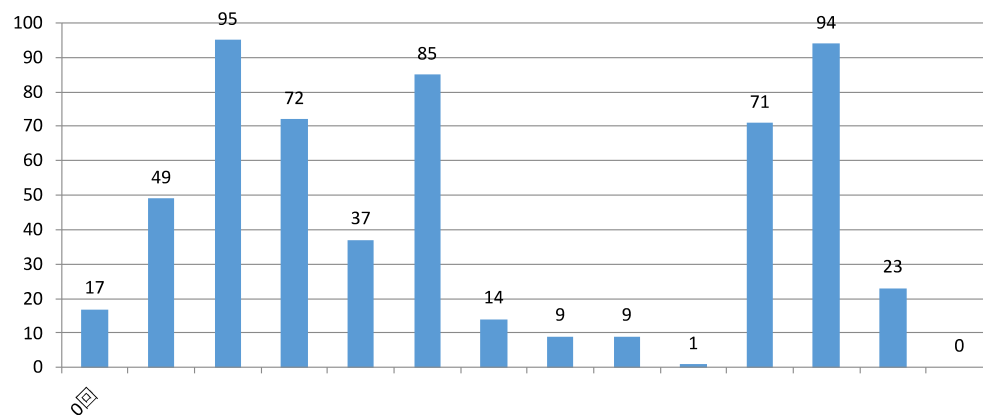


資料 2

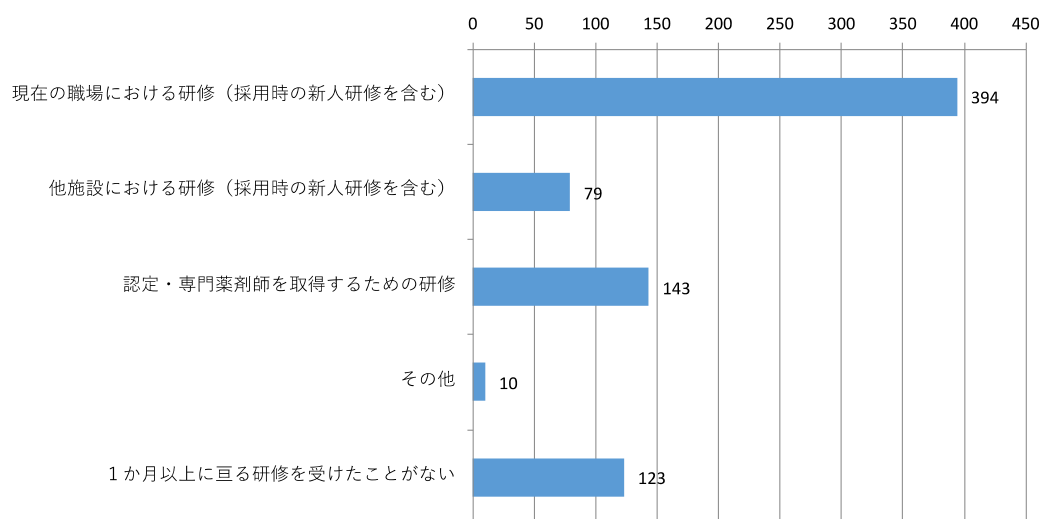
19. 認定資格の保有状況(複数回答可)



20. 外部研修の年間受講頻度

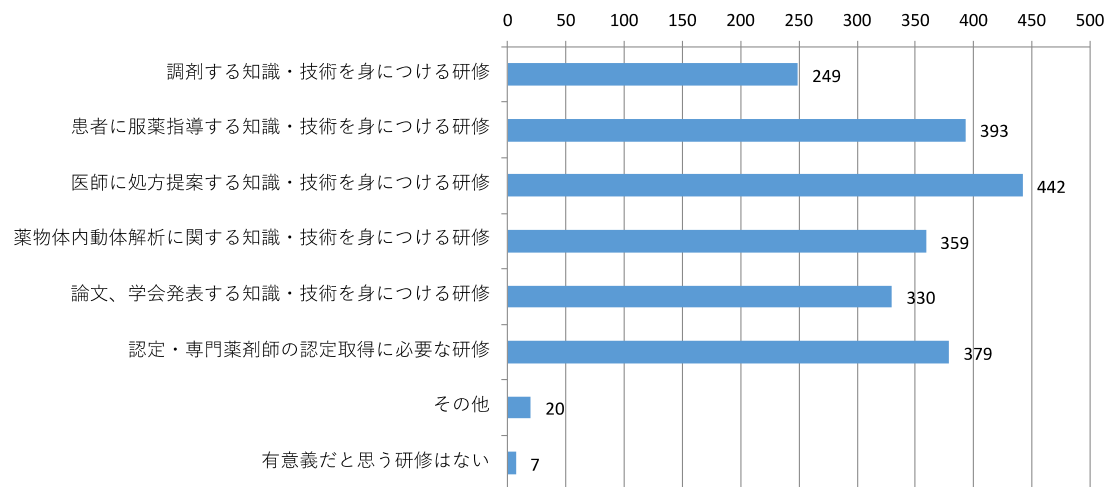


21. 研修期間延べ1か月以上の受講経験

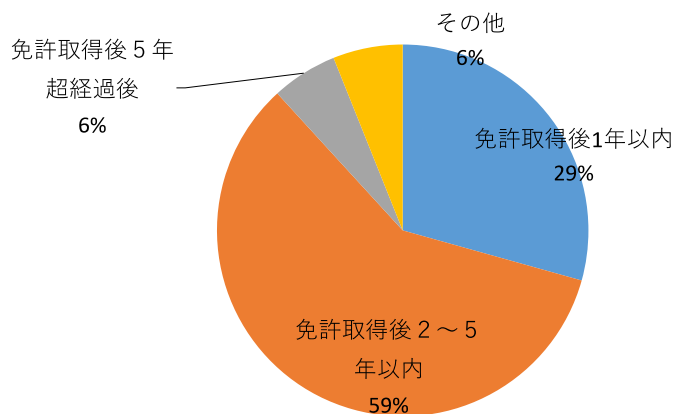


資料 2

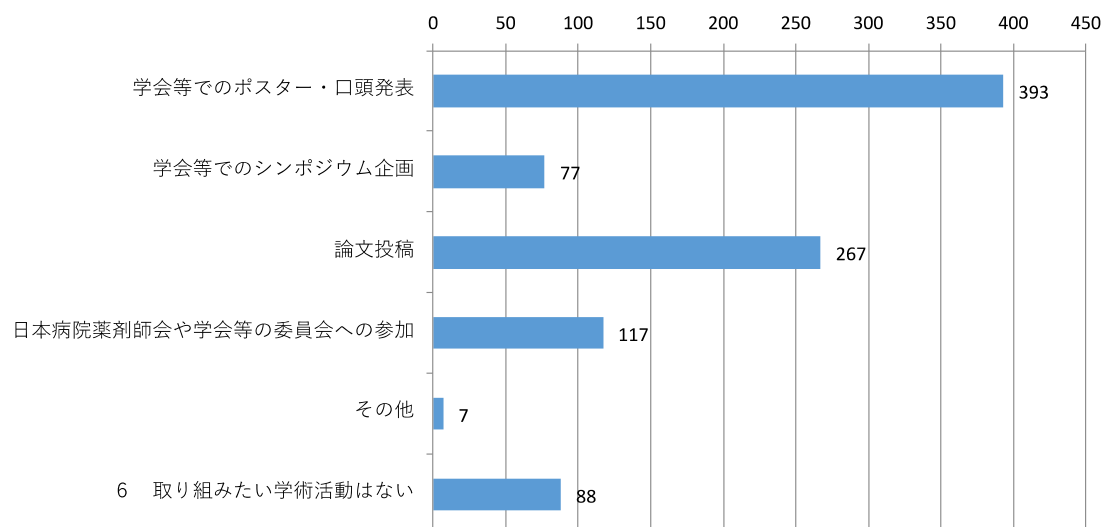
2 2. 薬剤師として勤務する上での有意義だと思う研修(複数回答可)



2 3. 研修を受ける上で適切と思う時期



2 4. 今後取り組みたい学術活動(複数回答可)



資料 2

2 5. 将来的なキャリア形成(複数回答可)

